



# サイド・バイ・サイド・インターナショナル Side by Side International

特定非営利活動法人

活動報告2008年1月から5月

## 2008年3月カンボジアでの活動

サイド・バイ・サイド・インターナショナル・スタッフは、3月10日から1ヶ月間カンボジアを訪問し、様々なプロジェクト活動を行いました。以下はその要約です。



コーラップ4孤児院の子ども

### 1. 命を守る緊急車両整備事業



プノンペン西部保健局のイム・ソチャット局長と救急チーム、TICOの五十嵐夫妻

サイド・バイ・サイド・インターナショナル(以後、SBSIに省略)は、複数の団体との協力のもと、1999年より、カンボジアを始め、アジア・アフリカ諸国への救急車両の寄贈及び輸送手配を行ってきました。

2008年3月には、東京都より救急車を寄贈され、プノンペン西部保健局に送る予定です。現在、NPO法人TICOが、首都プノンペンにおける救急システムの強化のため、現地の救急隊員の養成や公立病院・行政とのネットワーク構築事業を実施しており、日本の本格的な救急車の導入は大いに助けとなるでしょう。同じく日本のNPOであるセカンドハンドも支援を行っています。

TICOの伊原さん  
現地救急スタッフ訓練中の



今回の訪問で、SBSIのスタッフは、TICO及びプノンペン西部保健局の局長との協議、救急隊員訓練見学、管轄区内のスラム訪問などを行いました。プノンペンでは、人口の急増に伴い、交通事故も増加しています。救急隊は、どれだけ多くの人の命を救うことでしょうか。そして、この地域を始めとして、救急隊整備及び救急ネットワークが確立され、プノンペン首都圏さらにはカンボジア全国に拡大していくことを期待しています。SBSIはTICOとパートナーシップを結んで連携しています。

まず、東京都からの救急車とTICOが寄贈された救急車もあわせて合計4台を現地に送る準備をしています。それらは、市民病院や政府の災害対応ユニットなどで活躍する予定です。4月には、パラマウント・ジャパン様から寄贈されたPC5台をカンボジア救急事業のために送りました。



東京消防庁を通じて、東京都よりSBSIに寄贈された救急車

また2002年にSBSIがカンボジアに寄贈して、無医村地帯での医療活動に使用されていたスーパー救急車が、8月に完成予定のココン州のグラフィス・プレイピセ診療所(p3を参照)近くに配備されました。すでに地域住民のための「海を越える看護団」(日本)の医療活動にも使用され連日、マラリア患者などに対応しています。



ココン州に配備されたSBSIのスーパー救急車

## カンボジアについての統計

国土面積 日本の約半分  
人口 1400万人 (約45%は18歳未満)  
平均寿命 57歳  
5歳未満児死亡率 143人(1000人あたり)  
新生児死亡率 40人(同上)  
乳児死亡率(1歳未満) 96人(同上)  
1日1ドル未満で暮らす人 34%  
(ユニセフ 2007年版 世界子ども白書)

### 三大死亡原因

1. HIV/AIDS
  2. 交通事故
  3. 結核
- (WHOの2006年の統計)



ラッシュアワー時の  
プノンペンの交差点



乗合バス



喜びは分かち合ってこそ、人生最高の喜びとなる



## 2. ルムドア島での学校運営サポート



日本の皆さまのご支援のおかげで、カンダル州タクマウにあるルムドア島の学校「コー・ルムドア学校」も二年目を迎えました。サイド・バイ・サイド・カンボジア(現地NGO)スタッフが管理するこの学校は、最初は幼稚園から始まりましたが、多数の幼稚園児が就学年齢に達したことで、家庭が貧しく公立学校に行けない就学年齢児童も加わったことで、3歳から13歳まで、32人が毎日出席しています。教師は3名、2クラスから3クラスに分けて授業を行います。今年1月より、英語を話す教師も現地採用しました。また、プノンペン在住の木村エミ子様から机と椅子の寄贈もいただき、立派な教室となりました。今回の訪問では、カンボジア人通訳を通じて、家庭環境も含む生徒の名簿を英語・日本語・カンボジア語で作成しました。生徒数は、さらに増えています。



現在、教会の一室を借りて年長の子どもたちの授業をしていますが、狭くなっており、SBSIおよびSBSカンボジアは、島での土地の購入、および校舎並びに臨時診療所にもなる建物の建設も検討しています。しかし、カンボジアでは現在、土地の値段が急騰している上、土地売買のトラブルも多く、慎重に進めています。



SBSIでは、日本の支援者のご協力により、その他、障害者のいる家庭や母子家庭など、貧困家庭への毎月の生活費支援も行っています。また、SBSカンボジアスタッフは、定期的に米など食料支援や、海外からのボランティアチームによる家屋修復や医療チーム派遣のコーディネートも行っています。

カンボジアでは、基本的に無料の義務教育が定められているものの、現実には、学校の先生の給料がとても安いために、先生は、生徒一人一人から授業料を徴収するケースが多いため、家が貧しくて学校に行けない子どもたちもいます。そのために、SBSIでは、教師たちの給料や給食費を支払うことで、そのような子どもたちに無料の教育機会を提供しています。

## 3. ハウス・オブ・スマイルズ(障害児センター)へのPC寄贈



SBSIスタッフは、ハウス・オブ・スマイルズのプノンペンセンター(写真:右上)とカンダル州の新センター(右下)を訪問し、所長のチャン・サリン氏に、昨年要請されていたノートパソコン1台(パラマウント・ジャパン社からの寄贈)を寄贈しました。



同センターでは、虐待または放置されたり、工場で働かされていた障害児を保護するほか、地元の障害児のための学校も運営しています。ノートパソコンは、現地での障害児調査などのために使用されます。今回、サイド・バイ・サイド・カンボジアのスタッフが毎週パンを供給することとなりました。





## 4. グラフィス・プレイピセ診療所建設計画 (ココン州)



昨年夏、SBSIは日本の学生団体「グラフィス」のスタディーツアーをコーディネートし、同行しました。その目的は二つ。グラフィスが2006年に寄贈した学校訪問、そして、次の目標である診療所建設のためカンボジアの医療事情を知ることでした。以来メンバーである多数の大学生たちは、懸命にチャリティ・イベントなどを通じ、建設費を集めました。



(左は、昨年のスタディーツアーでルムドア島を訪問した時の写真)

SBSIは、学生たちからの要請を受けて、診療所建設候補地を選定。建設工事と運営の責任者は、今年、サイド・バイ・サイド・インターナショナルのカンボジア代表となったピーター・リー博士です。海外及び国内の医師が定期的に訪問し、診察を行うほか、常駐看護師として、日本の「海を越える看護団」の看護師たちの派遣が決定し、すでに現地で活動を開始しています。

また、この診療所の設計図を、福井大学の建築学科の学生ナイ・チュムニットさんがボランティアで作成してくれました。

この診療所の目的は大まかに以下の三点です。

完成予想図(外観)



1) 交通事故など緊急初動対応及び外傷ケア。建設予定地近くの国道4号線は、プノンペンから最大の港町であり観光地でもあるシアヌークビルを結ぶ240キロだが、交通事故が多く、きちんとした設備のある病院がない。配備されている救急車を出動させ、重度の場合は、プノンペン救急隊とのネットワークにより、プノンペンの病院に輸送。

2) 地域住民への基本的診療(風土病であるマラリア治療も含む)及び地域住民への保健衛生教育。

3) TICOや海を越える看護団のスタッフの協力による、現地医療スタッフ及び救急隊員の訓練

開院式は、2008年8月下旬の予定で、現在、建設工事と同時に、救急車の整備やプノンペンの救急隊との連携システム構築が進んでいます。カンボジアの全国ネットのテレビ局がドキュメンタリー取材も行う予定です。

SBSIは、日本で医療機器やソーラーパネルなどの寄贈をつのり、コンテナで現地へ送る予定です。皆様のご協力をお願いします。



現地の子供たち

## 5. 神の愛の宣教師会



子供達とSBSCのスタッフ

マザー・テレサが創立した神の愛の宣教師会は、カンボジアでも熱心な奉仕活動を行っています。今回、同会が運営するHIV感染児の孤児院を訪問して、残り少なくなったSBSIのオリジナル絵本を配りました。50人いる子供たちの内3人を除く全員がHIV感染児で、病院や施設の前に捨てられていた子供たちもいます。でも、子供たちの笑顔と、やさしいシスターたちに出会うことができました。

またサイド・バイ・サイド・カンボジアのスタッフが、ここでもパンを配布し、シスター達の要請により、毎週、同施設にパン類を供給することを決定しました。





## カンボジアのお正月

カンボジアのお正月は、4月13日から15日。1年で最も暑い時期です。新年の入りは毎年時刻が異なり、今年は4月13日午後6時24分でした。このシーズンには、日本のお盆のように、あちこちで音楽が流れ、踊りや伝統的なゲームが見られます。



## コーラップ4孤児院

コーラップ4孤児院では、4月6日に新年パーティを開きました。SBSIスタッフも、SBSCスタッフの市場での買い物などを手伝いました。65人の子供や若者、それにお客様たちを迎えて、楽しいゲーム、夕食、カンボジアダンスと続きました。

## 自立支援について学ぶ—IKTTの森本喜久男さんから聞く

第三世界に対する援助については、精神的・経済的な自立支援が最も重要とされています。カンボジアで長くその活動をされている方から学ぼうと、クメール伝統織物研究所所長の森本喜久男さんの、「伝統の森」に宿泊し、お話を聞きました。森本さんは、1995年、カンボジアの内戦によって途絶えかけていた伝統の織物の復興を課題にその活動を始めました。近年、開拓した伝統の村では、蚕の餌となる桑の木や綿花の生産、染色、織物のすべての過程を、カンボジア人が行っています。そして、有給の研修生を農村部の貧困層から優先的に採用し、女性の自立を支援すると共に、家族も村で働き、幼い赤ん坊や子供のいる母親も安心して、働くことができます。



## ミャンマーのサイクロン被災者支援

サイド・バイ・サイド・インターナショナルは、5月に、ミャンマーのヤンゴン市在住の外国人とミャンマー人による「International Assistance Group Burma」に、寄付金を送りました。彼らは、サイクロンで自分たちの家屋にも被害がありましたが、翌日から、ミャンマー人メンバーたちが、軍の没収を避けるため、自分たちの持ち物を装って、最も深刻な被害を受けた地域に救済物資を持ち込み、配布しました。ボランティアの中には、親戚23人を失いながらも、父と共に救済活動をする現地人女性もいます。皆さんのお祈りとご支援をお願いします。

### 皆さまからのご協力を お待ちしております

みずほ銀行 世田谷支店  
普通口座 2223876  
サイド・バイ・サイド  
郵便貯金 10170 52836371  
サイド・バイ・サイド

### サイド・バイ・サイド・インターナショナル へのご支援方法

#### 寄付をする

- ・診療所の医療機械を送るためのコンテナ輸送費
- ・サイド・バイ・サイド・インターナショナルの活動費
- ・食料価格高騰による学校給食費増額分の費用

#### 提供する

- ・バン(カンボジア等に送る物資の引取・運搬用車両)
- ・倉庫(物資を保管したり、梱包作業などを行う)

特定非営利活動法人 サイド・バイ・サイド・インターナショナル

〒156-0051 東京都世田谷区宮坂3-35-22-111 TEL&FAX 03-5300-3324

E-mail: mail@side-by-side-intl.org Web http://www.side-by-side-intl.org